

今年はや暖冬といわれ、確かに暖かい日が多いように感じますが、朝夕の寒さは徐々に厳しさを増してきています。

現在会員登録数 4,204 人さま。次号は 2 月 20 日発行の予定です／

☆。。.:\*・。★。。.:\*・。☆。。.: 目次 \*・。☆。。.:\*・。★。。.:\*・。

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

《5》宮川健郎 私の出会った児童文学者たち ※今月は休載です

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

☆。。.:\*・。★。。.:\*・。☆。。.: \*・。★。。.:\*・。☆。。.:\*・。★。。.:\*・。

■-----■  
【1】お知らせ

● 第 19 回国際グリム賞 贈呈式・記念講演会 参加者募集

世界の優れた児童文学研究者を顕彰する第 19 回「国際グリム賞」(国際児童文学研究賞)の受賞者が、クレア・ブラッドフォード博士(オーストラリア・ディーキン大学名誉教授)に決定しました。贈呈式および記念講演会を開催します。

講師：第 19 回国際グリム賞受賞者 クレア・ブラッドフォード 博士

演題：「オーストラリアの緑との交流 オーストラリアの絵本における植物と人間のかかわり」

日時：令和 6 年 2 月 4 日(日) 午後 2 時～5 時

会場：国民會館 武藤記念ホール(大阪市中央区大手前 2)

定員：70 人(申込先着順) 参加費：無料

主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団／

一般財団法人 金蘭会／大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

お申込み、詳細は ↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/01\\_grimm/index.html#19ceremony](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/01_grimm/index.html#19ceremony)

● 寄付プレゼントキャンペーン実施中です

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

期間中、1 万円以上ご寄付いただいた方に下記の中からおひとつプレゼントいたします。

◇キャンペーン期間：令和 5 年 12 月～令和 6 年 1 月

◇プレゼント内容：

〈1〉富安陽子さんのサイン本 1 冊(限定 20 冊)

〈2〉イイクロちゃんグッズ 全種類セット

〈3〉当財団発行の報告集 1 冊

※詳細は → [http://www.iiclo.or.jp/donation\\_10th.html#campaign\\_r5](http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html#campaign_r5)

※Syncable（シンカブル）＝継続寄付（毎年／毎月）、単発寄付が選べます。  
→ <https://syncable.biz/associate/19800701/>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」  
<https://www.youtube.com/@iiclol196>

公開内容一覧は → [http://www.iiclo.or.jp/ml\\_youtube/index.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_youtube/index.html)

● 当財団公式 X（Twitter） → [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

■ ----- ■  
【2】コラム  
■ ----- ■

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Aya's Talk

\*\*\*\*\*

『わたしは あなたは ペアトリーチェがアジザの、アジザがペアトリーチェの伝記を書く話』 ジューズィ・クアレンギ/作 よしとみあや/訳 解放出版社 2023年12月 対象年齢：小学校中学年以上

\* 今回のゲストはイタリア語の翻訳家のよしとみあや（A）さんです。

\* 作品の結末まで書いています。

あらすじ：図書館司書のマリーナさんは、ペアになってお互いの伝記を書くというプロジェクトを考え、ワークショップを開催する。そこに参加した8歳で3年生のペアトリーチェとモロッコ出身で母と二人でイタリアに来た10歳で2年生のアジザはペアを組むことになる。ペアトリーチェはアジザを自分の家に招待するが、ペアトリーチェの家族は、最初、アジザを偏見の目で見ると見られる。けれど伝記を書く活動を通して、子どもたちも周りの家族もお互いを理解していく。巻末に、読者が「伝記を書くためのメモ」という書き込みページがある。

Y：2007年にイタリアで出版された作品ですが、文化的背景の違う子どもたちの友だち関係が興味深く、今の日本の子どもたちに読んで欲しい作品だと思いました。なぜ、訳そうと思われたのですか。

A：私がこの作品に出会ったのは約7年前で、ちょうど海外から日本に移住する人が増えている時期でした。国籍の違う二人の子どもが会って伝記を書き合うという設定がユニークだと思いました。全訳して出版の機会を探っていましたが、やっと出版できてうれしいです。

Y：訳していらっしゃるうちに改めて魅力を感じた点はどんなところですか。

A：大人の描き方です。アジザはお母さんが住み込みで仕事をしているため、平日は施設に預けられていますが、そこのシスターがアジザの境遇を「幸運」で感謝すべきだと言ったり、ペアトリーチェがアジザの母を家に招待したいと父に言ったとき、父が「もう娘がいりびたっていて、次に母親も家に入れようっていうのか」（p.52）と言ったり、アジザの母がペアトリーチェを自分の勤め先の家に連れていったとき、雇い主が「ところで、あなたのお母さんは、あなたがだれといるか、ご存知なの？」（p.82）と言ったり、自分では差別していると意識せず、偏見に満ちたことを言います。そのことがさらっとユーモラスに描かれていて、リアルに感じました。

Y：そんな中で、バリアを崩すのが、ペアトリーチェとアジザやペアトリーチェの兄のジョルジョで、子どもの可能性が描かれているように思いました。

A：ペアトリーチェの5歳年上のジョルジョは、ペアトリーチェのことをめ

んどくさく思うこともあるけれど、プロジェクトの理解者であり、ユーモアたっぷりにベアトリーチェの小さい頃の話を語ってくれます。

Y：ジョルジョはいい味出していますね。

この作品のユニークな点に、ベアトリーチェやアジザからお話が始まるのではなく、司書のマリーナさんが伝記プロジェクトを考え付くところから始まる場所があると思いました。もし、子どもたちから物語が始まっていたら、二人の伝記の完成作品を読みたくなかったと思いますが、マリーナさんから始まることで、読者もマリーナさんの企画に巻き込まれた気持ちになって読み終えるので、完成した伝記作品を読まなくても作品が終わったように思います。そして、巻末の「伝記を書くためのメモ」も効果的になっていると感じました。

A：伝記が完成していない、つまりオープンエンドになっています。私はこれは、あえて完成作品を見せないことで、伝記は書き続けるものだというメッセージが伝わるように思いました。

Y：書きかけの伝記の中には、二人の共通点も書かれていておもしろかったです。

A：この本は、ディスレクシアの人でも読みやすいフォントが使われており、障害などのためにこの本を読めない人のためにテキストデータを提供する引き換え券もついています。電子書籍もあるので、いろいろな人が楽しんでくれたらうれしいです。

\*\*\*\*\*

## 《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

### 第100回「インドラの網」

#### 感覚のすぐ隣り

〈そのとき私は大へんひどく疲れていてたしか風と草穂との底に倒れていたのだとおもいます。

その秋風の昏倒の中で私は私の錫いろの影法師にずいぶん馬鹿ていねいな別れの挨拶をやっていました。〉

こう語りはじめられる「インドラの網」の「私」は、「馬鹿ていねいな別れの挨拶」のあとはもう、ただひとりでツェラ高原を歩いています。暗いこけももの敷物（カアベット）を踏んで。ツェラ高原は、西域（中国の西方地域）の高原を思わせる架空の地名ですが、そこへ急にたどりついてしまうのです。こけももには赤い実が付き、冷たく白い空が高原いっぱい広がっています。

やがて、「私」は、「人の世界のツェラ高原の空間から天の空間へ」移動することになります。天人が翔けていくのを見て、「ははあ、ここは空気の稀薄が殆んど真空に均しいのだ。だからあの繊細な衣のひだをちらっと乱す風もない。」と思います。この天の空間へも、ふっとまぎれこんでしまったようです。「こいつはやっぱりおかしいぞ。天の空間は私の感覚のすぐ隣りに居るらしい。」

「私」は、そこで夜明けを待っている3人の天の子どもたちを見ます。太陽がのぼって、ひとりが叫びます。「ごらん、そら、インドラの網を。」

〈いまはすっかり青ぞらに変わったその天頂から四方の青白い天末までいちめんはられたインドラのスペクトル製の網、その繊維は蜘蛛のより細く、その組織は菌糸より緻密に、透明清澄で黄金で又青く幾億互いに交錯し光

って顛えて燃えました。)

インドラは因陀羅で、帝釈天（仏教の守護神で天上世界の王）のこと。その宮殿にかけられた網には網の目ごとに宝珠があるといます。壮大で絢爛たる光景です。「私の感覚のすぐ隣り」にある天の空間の景色ですが、私たち読者も、童話のページをめくると、急にこの世界にたどりついてしまいます。天の子どもたちが見えなくなって、「却って私は草穂と風の中に白く倒れている私のかたちをぼんやり思い出しました。」—これが、この童話の結末です。

「まぎれもない文学作品において、賢治の自然科学的感受性と宗教意識との密接な結びつきが示されている。」というのは、天沢退二郎の評価です（『新修宮沢賢治全集 10』解説、1979年）。（馬車別当）

（本文の引用は、筑摩書房刊『宮沢賢治コレクション 4 雁の童子』によりました。）

\*\*\*\*\*

《3》子どもの本の珠玉のことば 54

\*\*\*\*\*

日本人として、これまでの「日本児童文学史」が明治時代以後の自国だけを扱うという「枠」を作っていたことに、ずっと、違和感をもってきたのは事実です。また、タウンゼントに代表されるように「文学性」literary qualityだけを物差しにする論にも、「子ども読者」論から、もっと、自由に論じられないかと思ってきました。研究では、そういう自分の思いを、これまでに出版されたものを駆使して、論証するという時間のかかる手続きが必要でした。

（第17回国際グリム賞受賞記念講演「イギリス児童文学史再構築論を通して日本児童文学」史を再考する 三宅興子 『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』第33号 2020年3月 p.114）

前理事長で、児童文学研究者の三宅興子先生が亡くなられて1年2カ月がたちました。2023年12月17日（日）に、大阪府立中央図書館にて「フォーラム 児童文学とは何かを問い続けて —三宅興子の仕事を顧みる—」（講師：多田昌美、藤井佳子、松下宏子、主催：当財団）を行いました。

三宅興子先生は、生前から先生の集めた貴重な資料を国際児童文学館に寄贈すると決められ、28,000点を超える資料をくださいました。講師の3人は、2023年3月から毎月のように集まり、それらの資料を調査し、展示「子どもの本のはじまり—三宅興子 英語圏児童文学コレクションから—」（主催：大阪府立中央図書館国際児童文学館、協力：当財団、場所：図書館内、11月10日（金）～12月27日（水））の企画・構成をすると同時に、フォーラムでは、それらの資料を紹介しながら三宅先生の業績を振り返り、研究の未来への可能性を述べてくださいました。

フォーラムでは、世界で優れた児童文学研究者に贈られる国際グリム賞を受賞された際の記念講演会のビデオから引用の部分を放映しました。絵本や画像を含む英語圏の児童文学を研究しながら、日本の児童文学を考える視座を持ち、子ども読者の重要性を説いた三宅先生ならではの言葉だと思います。その方法論として、三宅先生は他の研究者の発言を真に受けず、徹底的に一次資料に当たることをされてきました。先生がこれまで撒いてくださったた

くさんの種や、花を咲かせ、実を結んでできた新しい種を、いかに引き継いでいくか、多くのことを考えたフォーラムでした。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

無印良品 グランフロント大阪北館 2F-4F で来年1月7日まで開催されている『small MUJI』展「日用品のたのしみ方」に行ってきました。ミニチュア写真家・見立て作家の田中達也さんが無印良品の製品をビルや農場など、別の風景に見立て、そこに数センチの人形が暮らしているミニチュア作品が写真とともに展示されていました。

4階がメイン会場で15点の作品が紹介されています。その中には、「ルーズリーフの穴はこうして作られた」という、2束のルーズリーフを穴が向かい合わせになるように置き、その先に、フード付きダウンコートを着て、赤いマフラーをして、赤いブーツをはいた子どもがいることで、穴が雪の中を歩く子どもの足跡に見立てられているという作品や、「田卓(でんたく)」といって電卓が重ねられ、液晶の部分に稲らしき緑があって、田植えをする人たちが置かれることで、棚田の風景が作られている作品や、「田舎ぶらし」といって、ブラシの毛が麦に見立てられ、小さい人々が刈ったり、取り入れたりする姿が作られている作品などがありました。

また、3階には「暮らしの引き出し」というジオラマ作品があり、いろいろな引き出しに、テレビを見たり、台所があったり、ソファでくつろいでいたり、電車が走ったりしている小さな人々の様子が、ホッチキスやノート、缶切り、消しゴム、カートンなどを使って作られていました。2階には、新作「スノーダスト」があり、透明の洗濯ばさみを使った氷の彫刻や、白いブラシやプラスチックのたらいやバケツなどを使った雪の風景が作られ、小さい人々がスケートや交流を楽しんでいる姿が作られていました。タオルで作られた雪山を登っている人や、サンタクロース、トナカイ、クマもいました。

どの作品も、日常のものが違って見える楽しさと、そこで暮らす小さな人々の様子が興味深く、一つの作品からたくさんの物語が読み取れます。同時に、風景が作られているものが何かを考えたり、こんなところに、こんな人や動物がいるということを見つけたりする楽しさもあります。そのおもしろさが『くみたて』(田中達也/作 福音館書店 2022年6月)などの絵本になったんだなと思いました。(K)

無印良品 グランフロント大阪

<https://www.muji.com/jp/ja/shop/045589/articles/events-and-areainfo/events/1305066>

\*\*\*\*\*

《5》 宮川健郎 私の出会った児童文学者たち

\*\*\*\*\*

今月は休載します。

2024年1月配信のN0.161からは、第3章「あまんきみこさん」です。

<これまでの連載はこちらから>

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/watashinodeatta.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/watashinodeatta.html)

■ ----- ■  
【3】全国のイベント紹介  
■ ----- ■

- 大阪府立中央図書館 国際児童文学館 企画展示  
「子どもの本のはじまり -三宅興子 英語圏児童文学コレクションから-」  
会 期：開催中～12月27日（水） 開館時間にご覧いただけます  
場 所：大阪府立中央図書館 展示コーナーA・B、国際児童文学館  
主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館  
協 力：大阪国際児童文学振興財団  
<https://www.library.pref.osaka.jp/site/jibunkan/hajimari2023.html>

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■  
【4】プレゼント ☆  
■ ----- ■

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『わたしは あなたは』をプレゼントします。ご希望の方は、プレゼント応募フォームから、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ ご応募ください。

応募フォーム⇒ <https://forms.gle/uRUXNcKVXEg4v8sK7>

締切は1月10日（水）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |  
— | — | — | — | — | — | — | — | — |

年の瀬を迎え、月日のたつのが早いことを改めて感じます。今年、久しぶりに開催できたイベントでは、以前の段取りの記憶がおぼろげで、冷や汗をかくことも。本年もご愛読いただきありがとうございます。多くのあたたかいご支援に深く感謝申し上げます。来年もどうぞよろしくお願いいたします。(TA)

-----  
みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いいたします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html)

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp  
-----  
-----